



南極大陸に命をかけて

【1878(明治11)～1931(昭和6)】
土屋 友治
つら ともじ

1878(明治11)年、西田川加茂村、漁業・土産与助の三男として生まれました。当時の加茂は天然の港湾としててにざわい、土屋に大きな影響を与えました。水夫時代から刻苦勉勵して海技資格の取得に挑み、遂に甲種二等重転士となり、東洋汽船の外国航路にも高級船員として勤務。1910(明治43)年、日本で初めての南極探検で「開南丸」(204ト)航海長として32歳の若さで探検を成功させました。観測船として小さな開南丸を厳しい氷海の中を巧みに運転し、探検隊の南極大陸上陸を果たし、1年7カ月ぶりに無事日本に帰って来ました。加茂水産高校の玄関前に功績を称える胸像があります。



日本の海上旅客輸送の発展に尽力

【1888(明治21)～1929(昭和4)】
佐藤 吉蔵
さとう きちぞう

金沢に生まれ、苦勞して学び努力して仕事をし、水夫見習い、水夫、船夫、一等航海士となり、30代で外国航路船長となりました。大正時代大型ヨロヰ「航路客船「神福丸」(2204ト)の船長として、日本の海上旅客輸送の発展に尽くしました。



日本海 ヌス流し網漁業 企業化に成功

【1904(明治37)～1975(昭和50)】
本間 孫四郎
ほんま ますしよら

1904(明治37)年、豊浦村由良(現鶴岡市由良)の漁家、佐藤孫十郎の子として生まれ、小学校卒業後、加茂の本間家の養子となり、漁業に従事します。機船引込し網漁業の創始者として、樺太に渡り、新漁場の開拓に当たりました。また、サバ、イワシ、アジのヌス流し網漁業の安定を図りました。開発した漁法や漁具を公表し、日本の漁業発展に大きく貢献しました。



発動機船導入し 沖合底曳漁業操業 水産振興に尽力

【1887(明治20)～1973(昭和48)】
菅原 常治
すがはら つねはる

1887(明治20)年、加茂漁産物問屋の長男として加茂に生まれ、荘内中学を卒業後家業を継ぎました。24歳の時、共同出資で庄内初の発動機船「誠喜丸」を購入し、沖合底曳網漁業を創業し近代漁業の先駆けとなりました。加茂水産高等学校の創立や、鳥海丸建造など後継者育成にも力を入れ、加茂漁業協同組合長や県漁業協同組合連合会長なども務め、水産の発展のため一生を捧げました。



日本人初 北洋漁場開発 経営者に

【1861(文久1)～1916(大正5)】
尾形 六郎兵衛(6代目)
おがた るろべゑ

鶴岡市加茂の旧家・尾形家の6代目。尾形家は海運業を営んでいましたが、5代目が回船問屋を始め、加茂港を拠点に北海道と往来。特に、米、大山の酒、海産物などの取引の商売をしていました。その後、日本人として初めてカムチャツカ、樺太などの北洋で漁場を開発しました。尾形家など大きな利益をあげ、日本の北洋水産業の先駆けとなりました。



漁業開拓に大きな足跡

【1901(明治34)～1973(昭和48)】
尾形 六郎兵衛(7代目)
おがた るろべゑ

16歳の時、父・6代目尾形六郎兵衛が急死したため、荘内中学卒業と同時に家業の水産業を継ぎ、樺太、千島、北海道の各地に水産会社を創立しました。南方のヌズロ漁業や中国南部方面の海洋資源開発にも取り組みました。東水産業会長や県漁業協同組合連合会長など務めると共に1947(昭和22)年戦後第1回の参議院議員に当選し、電気通信政務次官を務めました。



加茂の商業を 繁栄させた 加茂坂峠新道

【1759(宝暦9)～1829(文政12)】
鉄門海上人(恵眼院鉄門上人)
てつもん かいしやうじん

鶴岡市旧大宝寺村(現鶴岡市宝町)出身。21歳で注連寺に入り、行者名「鉄門海」を授かりました。鉄門海の「海」の字は真言宗開祖空海(弘法大師)の「海」を賜ったものです。北前船の寄港地として多くの船が入り出した加茂と鶴岡城下を結び加茂山の山越えが困難だった為、1810(文化7)年大山上池側から加茂坂に当たる改修工事を始めました。1812(文化9)年からこれまでの加茂坂峠古道より南側に約500mも距離を短縮させた新道を造りました。この工事には近隣の有志や信者延べ1万人以上の人々が鉄門海のために無償で集まりました。現在、鶴岡市大綱七五三掛の注連寺に即身仏として安置されています。



【1820(文政3)～1881(明治14)】
鉄童海上人
てつどう かいしやうじん

秋田生まれ。16歳の時に鶴岡南岳寺に入りました。師匠は注連寺住職・天童海上です。1871(明治4)年、鉄門海の遺志を受け継いで、加茂坂峠を下げる工事を当時最新の地雷火(導火線付き爆発装置)を使って行いました。これにより、加茂坂峠新道の物流はますます容易になり盛んになりました。現在、鶴岡市砂田町の南岳寺に即身仏として安置されています。

北前船と加茂

江戸時代の中頃から明治30年代にかけて、大坂から松前(北海道)を日本海回りで交易していた船が「北前船」です。北前船の呼称は、瀬戸内・関西方面で使われており、加茂では「大船」「弁財船」(写真A・B)などと呼んでいました。北前船は、寄港地では積み荷を高値で売り、高値で売れる商品を安く買入れる取引をしながら日本海を行き来していました。加茂港から、主に米、酒などが移出され、塩、砂糖、古着、紙などが移入されました。加茂には30軒以上の廻船問屋があり、蔵が建ち並び、栄えていました。

北前船は、さまざまな文化も各寄港地に運びました。例えば、北海道の鯉節や昆布を使った和食の文化ができたのもその一つで、鶴岡の食文化も北前船によって形成されました。

1232(貞永元)年、帆船の乗組員たちによって関西方面から伝えられたのが「加茂泊町大黒舞」です(写真1)。「大黒様」と「恵比寿様」が対になり、唄に合わせて踊る大変珍しい民俗芸能です。昭和20年代までは、毎年1月11日の船魂祝いに大漁と海上安全の願いを込めて、各船主の家々を廻って座敷で舞っていました。今は船主が減ってしまった為、地元の記事などで披露されています。

加茂岡町にある西栄山浄禅寺(浄土真宗・マップ7)に藩州坂越浦(兵庫県)船講中より1790(寛政2)年に寄進された喚鐘(写真2)があります。平成の初め頃まで現役で浄禅寺の行事鐘として使われていました。

北海道松前の商人で善宝寺の五百羅漢堂の寄進者の一人栖原家の総代理人小右衛門が1878(明治11)年奉納した船絵馬(写真3)が、春日神社(マップ10)にあります。春日神社に奉納された江戸末期に造られた弁財船の1/6の大きさの模型(写真4)は、致道博物館に展示してあります。※致道博物館には加茂の北前船関係の文化財が多数展示されています。

以上、紹介した他にも北前船関係の品々や文化が今も加茂には残されています。



いにしへの港町

加茂



北前船寄港地船主集落



【交通アクセス】

- 鉄道●JR羽越本線「鶴岡駅」からタクシー(約20分)もしくはバス乗り換え最寄は「羽前大山駅」からタクシー(約10分)
- バス●「鶴岡駅前」から「加茂経由湯浜温泉行き」(約30～40分)
- 空路●庄内空港からタクシー(約20分)バスの場合、「鶴岡駅前行き」から「鶴岡駅前」で乗り換え
- 道路●日本海東北自動車道「鶴岡西IC」または山形自動車道「鶴岡IC」から国道7号および112号経由(約15～20分)

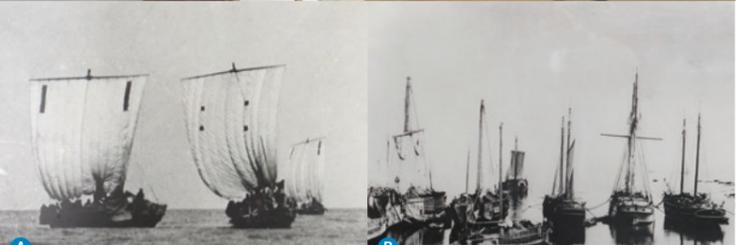
企画●鶴岡市加茂地区自治振興会
加茂ランドデザイン検討委員会歴史チーム

協力●加茂の文化遺産を愛する会

お問い合わせ●加茂コミュニティセンター TEL 0235-33-3023
加茂地区自治振興会ホームページ <http://yamagata-kamo.jp/>



【まち歩きガイド】 ●要予約(詳しくは加茂コミュニティセンターまで)
ガイド料 800円/人 ●ガイド希望日の2週間前までに申し込みください



加茂 歴史探訪マップ



11-2 防波堤の岩を取った場所



11-1 石垣の防波堤と赤灯台



12-1 岡町川アーチ



12-2 安養寺川アーチ



11-2 ●荒崎灯台



加茂レインボービーチ



山形県立加茂水産高等学校



山形県水産研究所



美好食堂



カニ販売所



熊野神社



20 海印寺



19 日和山山道入口



18 龍宮寺 笈



21 安養寺



22 少林寺



13 石垣の加茂港



17 弁慶沢隧道跡



16 石名坂家



15 長澤家



14 秋野茂右衛門家



6 岡町川船溜



10 春日神社 東助太郎絵馬



9 尾形家のマルトリの蔵



8 常福寺



7 浄禅寺山門



3 極楽寺 五輪塔・宝篋印塔



4 新地お稻荷様北前船絵馬



5 白山様 (白山比咩神社)



28 緑町遊郭の祭



1 藤滝不動尊



23 熊野神社



24 白蓮寺



25 妙定寺



26 桜ヶ丘公園 (恵比須山)



27 加茂坂峠新道



26 桜ヶ丘公園 (恵比須山)



27 加茂坂峠新道

交易と近代漁業先進地 加茂

加茂の港は北前船で栄える前から、日本海沿岸の交易で栄えた港でした。それは、極楽寺にある五輪塔・宝篋印塔や石川県に総本社がある白山様からうかがうことができます。今でも加茂には9カ寺(最高14カ寺あった)ありますが、交易に関わって各地から商人が移り住みそれぞれの寺を建立したことを示しています。また、加茂と大山・鶴岡・内陸を結ぶ陸路として加茂坂峠古道が幾度となく整備されています。その道は、出羽三山、金峯山、鳥海山等の信仰の道でもあり、港は参詣の玄関口ともなっていました。加茂港の岸壁や防波堤の整備などの近代化は、北前船の衰退期を迎える1900年代によく実現します。1920年代の庄内での鉄道開通時で物流の大切な港として活躍しました。その後、物流の拠点から北洋漁業や近代漁業先進地に変身しました。交易と近代漁業で栄えた面影は、今の加茂の町並みや残された建物、文化財にみることができます。加茂の町を歩きながら、今に息づくいにしへの加茂の繁栄ぶりを発見してみてください。

西暦(年号)	事項	地図番号	
北前船以前	古代 飛鳥 660(斉明6) 阿倍比羅夫、肅慎を討つ時、加茂に寄り休憩(極楽寺門前大塚)		
	古代 奈良 710(和銅2) 加茂は、能登からの移住によって開かれた? 金沢は、出雲国熊野村から7軒移住してきた?	5	
	古代 平安 858(天安2) 明石山龍宮寺(天台宗 庄内33観音霊場25番札所)	18	
	865(貞観7) 春日神社(大和国奈良春日神社より勧請)	10	
	中世 鎌倉 1187(文治3) 熊野神社(加茂1番地 出雲国八束郡熊野村分霊勧請)	23	
	1190~1198 極楽寺(寛政年間に曹洞宗に改宗 善宝寺末寺) 五輪塔2基と宝篋印塔3基(お堂内・畿内様式) 五輪塔(お堂外は1650年慶安3年)	3	
	1232(貞永1) 泊町大黒舞が伝わる		
	1253(建長5) 海印寺(心地覚心が加茂に流れ着き開祖)	20	
	近世 安土桃山 1474(文明6) 寂蔵寺(寂蔵坊聖徳太子尊像授け、加茂東山に草庵結ぶ)	7	
	1596(慶長1) 安養寺(浄土宗 富塚家開基檀徒)	21	
1600(慶長5) 常福寺(日蓮宗 京都本願寺末寺)	8		
近世 江戸	1622(元和8) 寂蔵寺(浄土真宗 寂蔵坊が東山から西山に移転)	7	
	1623(元和9) 少林寺開山(曹洞宗)	22	
	1642(寛永19) 白蓮寺開山(曹洞宗)	24	
	北前船 往來期	1672(寛文12) 浄禅寺創立(浄土真宗 寂蔵寺が本願寺から浄禅寺の寺号を賜る)	7
	1712(正徳2) 万雲供養塔(藤滝不動尊)	1	
	1790(寛政2) 浄禅寺喚鐘寄進(施主:藩州坂越浦船講中)	7	
	1803(享和3) 藩により、鶴岡・加茂・酒田に遊女を置くことを従来通り許可された。	28	
	1810(文化7) 加茂坂に続く道の大山上池脇の土手が崩れる。鉄門海がこれまでの古道より南側に加茂坂峠新道を信者たちの力で開削する。これまでの峠道より約500m近くなり歩きやすくなった。(加茂の廻船問屋の寄進あり)	27	
	1812(文化9)		
	1823(文政6) 加茂村廻船問屋長澤久三郎家の取引先が北は松前、津軽、秋田、南は大阪、兵庫、讃岐、東は仙台南部に広がって588店、取引品数26種に及ぶ。(廻船問屋:秋野茂右衛門家・大屋家・石名坂家など30数件)	14 15 16	
1853(嘉永6) 船絵馬(新地稲荷 但馬瀬戸 米屋與惣七)	4		
近代	1871(明治4) 鉄砲海、鉄門海を継ぎ加茂坂道開削に従事する。地雷火で岩石を砕き、日に2、3百人の百姓が働いた。	27	
	1878(明治11) 船絵馬(春日神社 松前 栖原小右衛門【総代理人】)	10	
	1879(明治12) 船絵馬(春日神社 東 勘太郎【加茂治郎】)	10	
	1884(明治17) 加茂隧道工事(工事期間7年)	27	
	1889(明治22) 弁慶沢隧道(加茂・湯野浜間の海岸道路完成)	17	
	北前船 衰退期	1898(明治31) 桜ヶ丘 陸軍軍人招魂祭碑(廻船問屋名あり)	26
	1899(明治32) 法連寺焼失・廃寺(湯殿山参詣者宿坊 成立年不明)	2	
	1902(明治35) 加茂港防波堤と岸壁工事(5年計画で明治40年に完成) 荒崎灯台の岩山を石垣に活用。	11-1 11-2 18	
	1903(明治36) 1月1日 荒崎灯台初点灯	11-2	
	1929(昭和4) 妙定寺開山(日蓮宗 守山妙定尼草庵を建てる)	25	
現代	1962(昭和37) 10月 赤灯台初点灯	11-1	